

平成30年度企画提案型協働事業 相談一覧(最終提案)

事業別	団体名	相談者名	相談開始日	提案書 受理日	3者協議 開始日	経過	団体 登録
自由提案 (新規)	こむnetちば	安齋氏	7月4日	7月24日	9月5日	9月25日に提案書を受理	あり
自由提案 (継続)	谷田武西の 原っぱと森の 会	矢野氏	7月25日	7月25日	8月31日	9月25日に提案書を受理	あり
	里地里山保 全ねっと	高橋氏	7月25日	7月25日	9月11日	9月25日に提案書を受理	あり
	印西防災 研究会	向井地氏	7月25日	7月25日	9月6日	9月21日に提案書を受理	あり
指定テーマ	エコネット ちば	小熊氏	7月25日	7月25日	9月18日	9月25日に提案書を受理	あり

提案1(こむnetちば)

日付	相談者	内容
7月4日	こむnetちば:安齋代表 (対応:杉山)	自由提案型で企画提案したいと相談があり、午前中に打合せを行った。3案の企画を検討しているとのことだが、傾聴ワーカ―養成講座を最優先で企画提案したいとの意向が確認できたため、高齢者福祉課に依頼し午後あらためて協議を実施することとなった。
7月4日	こむnetちば:安齋代表・ 栃尾氏、高齢者福祉 課:山田係長・小川係 長、市民活動推進課: 金井係長・杉山	同日午後、アイデア提案の概要について三者協議を行い、団体から概要について説明を受けた。支援対象は主に独居や生活困窮者の高齢者を想定しており、ボランティアには制度につなぐ役割をイメージしているとのことだった。講座は市民公開講座、団体による講座、外部講師による講座で実施する意向とのこと。 高齢者福祉課からは、現在市内で行われているボランティア事業について紹介した。提案内容については概ね了解したので、今後団体から相談があれば対応するとの回答があった。 市民活動推進課からは、長期的なビジョンが欠かせない企画提案だと思われるので、今の段階から将来的な展望を踏まえて企画立案することが重要であるとアドバイスした。
7月24日	こむnetちば:安齋代表 (対応:杉山)	自由提案型の新規事業として「協働の機会提案書(アイデア提案用)」が提出された。今後の流れについて概要を説明した。
9月5日	こむnetちば:安齋代表・ 栃尾氏・原氏、高齢者 福祉課:山田係長・小 川係長、市民活動推進 課:杉山・平木	アイデア審査が通過したことを受け、最終提案に向けた事業計画案を基に三者協議を実施した。 団体が活動をはじめたきっかけは、地域包括支援センターでの経験から高齢者の傾聴の必要性を感じたことによる。協働で取り組む意義については、市民活動団体が個人宅を訪問するためには、市の看板が信用を得る上で欠かせない点が大きかった。 高齢者福祉課としては、企画の趣旨は理解でき、協働事業として実施できる見込みを持っているとのこと。将来的に傾聴活動を実施する上での課題としては、審査会でも指摘のあった個人情報取扱いが挙げられ、この点について今後も検討を進めていくこととなった。また、類似の団体への働きかけや、民生委員等との関係が課題として挙げられ、今後は必要に応じて社会福祉課とも連絡をとることとした。募集する参加者については、我孫子市で実施している傾聴ボランティア事業を参考に、適切に対応していくと団体から説明があった。 市民活動推進課からは、事業計画書や経費内訳書の記載についてアドバイスを行ったほか、団体の基盤強化やコミュニケーションの重要性について伝えた。また、最終提案に向けたスケジュールについて、団体と担当課で検討を進め、その後あらためて三者協議を開催することを確認した。
9月19日	こむnetちば:安齋代表・ 栃尾氏、高齢者福祉 課:山田係長・小川係 長、市民活動推進課: 金井係長・杉山	団体と高齢者福祉課での協議結果を受け、2度目の三者協議を実施した。 すでに事業計画については大筋で合意が得られているため、今回は主に経費の内訳や団体と市の負担について意見交換を行い、考え方を整理した。市民活動推進課からは、経費内訳書の記載方法などについてアドバイスを行った。 以上の協議結果から、提案内容はほぼ固まったため、最終審査に進むことで協議は整った。今回の修正内容を反映した提案書を市民活動推進課と高齢者福祉課で再度確認した上で、協働の提案書を提出することになった。
9月25日	こむnetちば:安齋代表 (対応:杉山)	本日高齢者福祉課と最終調整を行い、協議が整ったため、最終審査に向けた協働の機会提案書が提出され、これを受理した。

提案2 谷田武西の原っぱと森の会

日付	相談者	内容
7月25日	谷田武西の原っぱと森の会: 矢野理事長 (対応: 杉山)	自由提案型の新規事業として「協働の機会提案書(継続提案用)」が提出された。今後の流れについて概要を説明した。
8月31日	谷田武西の原っぱと森の会: 矢野理事長 宮沢氏・寺井氏、環境保全課: 黒田、市民活動推進課: 金井係長・杉山	<p>最終審査会に向け、団体が作成した事業計画案を基に三者協議を実施した。</p> <p>事業計画については今年度の実施内容と概ね同様とするが、経費内訳については、今年度の内容から市の委託料の対象を大幅に組み替えたいとのことだった。具体的には、今年度は委託料に含めていた人件費を提案者が負担する無償労働力に変更し、新たに作業費の項目を設け、草刈作業に係る経費を計上することとしたいとの意向が示された。</p> <p>市民活動推進課からは、原則として活動に必要な経費は原則委託料とすべきものであり、団体と担当課の双方で考え方を整理することが重要とアドバイスした。その中で、費用分担を検討するうえでは、企画提案型協働事業終了後の今後の活動継続を考慮することも必要であると認識を共有した。なお、課題となっていたバロネスの使用については、市が貸し出す今年度の方法で問題ないとのことで、来年度も同様の方法で行うことになった。</p> <p>今後のスケジュールについては、基本的に団体と担当課で協議を進め、必要があれば再度三者協議を行うことで協議が整った。</p>
9月25日	谷田武西の原っぱと森の会: 矢野理事長 (対応: 杉山)	環境保全課と円滑に協議が進んだ旨を確認した。最終審査に向けた協働の機会提案書が提出され、これを受理した。

提案3 里地里山保全ねっと

日付	相談者	内容
7月24日	里地里山保全ねっと:高橋代表(対応:杉山)	自由提案型の継続事業として「協働の機会提案書(継続提案用)」が提出された。今後の流れについて概要を説明した。
9月11日	里地里山保全ねっと:高橋代表、農政課:齊藤係長・阿部、市民活動推進課:金井係長	<p>最終審査会に向け、三者協議を実施した。</p> <p>事業計画については、提案書案が提示されなかったため、書類審査の提案内容を基に以降交換を行った。隣接地区に整備範囲を拡大するという提案については、松虫姫公園周辺の市有地を対象とする方向で調整することになった。新たに団体から希望のあったイノシシの捕獲調査については、担当課から許認可や関連団体との関係があり、検討を要するとの回答があった。また、団体と事業の将来展望については、いには野小学校を拠点に、住民の参画による地域活動として拡大していくビジョンが示された。</p> <p>市民活動推進課からは、市民活動推進委員会の事前検討の内容を伝え、最終審査に向けて参考にするよう依頼した。</p> <p>以上の協議結果から、来年度も引き続き協働事業に取り組むことで合意した。協働の機会提案書の案を作成し、農政課と調整した上で、提案書を提出することで協議が整った。</p>
9月25日	里地里山保全ねっと:鈴木氏(対応:杉山)	対象地の拡大については、現在の区域の隣接地のみとすることで農政課と合意したことを確認した。最終審査に向けた協働の機会提案書が提出され、これを受理した。

提案4 印西防災研究会

日付	相談者	内容
7月25日	印西防災研究会:向井地代表(対応:杉山)	自由提案型の新規事業として「協働の機会提案書(継続提案用)」が提出された。今後の流れについて概要を説明した。
9月6日	印西防災研究会:向井地代表・大和屋氏(女性)・山口氏・大和屋氏(男性)・宮崎氏・横山氏、防災課:清田・安達、市民活動推進課:金井係長・杉山	<p>最終審査会に向け、事業計画案を基に三者協議を実施した。はじめに団体から、今年度事業の進捗状況について、アンケートの実施・分析と学習会用マニュアルの作成は滞りなく完了し、今後は学習会等を進めていく旨の説明があった。また、学習会については、当初は希望する町内会を個別に訪問して実施する計画となっていたが、希望者を集めて実施する方が効率的だとわかってきたことから、計画を見直して実施するとの説明があった。防災課とのコミュニケーションは極めて良好で、アンケートでは多くの協力が得られ、より効果的に実施することができたとのことだった。</p> <p>来年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、①新たなマニュアルの作成、②学習会の開催、③未設置組織へのアンケートを実施を行うとの説明があった。</p> <p>協議においては、活性化の意義について意見交換が行われた。事業計画には、市の計画に沿った具体的な目標設定値が記載されているものの、協働事業の主目的は啓発であり、目標の達成に団体が責任を負うものではないとの考えが共有された。また、新たなマニュアルの作成にはかなりのコストがかかることから、必要経費について団体と担当課で引き続き検討を進めることになった。</p> <p>以上のように、全体的な方向性について共通認識を得ることができたため、三者協議は今回で終了し、個別の検討課題についてはあらためて団体と担当課で打合せを行うこととなった。</p>
9月21日	印西防災研究会:向井地代表(対応:杉山)	本日防災課と最終調整を行い、協議が整ったため、最終審査に向けた協働の機会提案書が提出され、これを受理した。

日付	相談者	内容
7月25日	エコネットちば: 小熊氏 (対応: 杉山)	自由提案型の「協働の機会提案書(継続提案用)」が提出された。すでに具体的な計画まで作成してあるので、アイデア審査後、三者協議を行うことを確認した。
9月18日	エコネットちば: 齊藤理事長・小熊氏・鈴木氏・山崎氏、都市整備課: 麻生係長・小川、市民活動推進課: 金井係長・杉山	<p>最終審査に向け、三者協議を実施した。今年度は指定テーマ型での募集となったことを受け、はじめに都市整備課からその意図について説明を受けた。これまでの成果を踏まえ、今後も市民活動団体に市民の憩いの場を継続して維持管理してもらいたいとの説明があった。</p> <p>続いて、現在の管理状況について確認した。管理業務は順調に進捗しているが、調整池内は昨年度以上にガマやヨシの繁茂、枯れ草の堆積が著しく、流入口から土砂の流入堆積が進み、浅沼化しているとのことだった。そのため、ひょうたん島池や水生植物の草刈りは効果が薄くなっているため、事業計画を見直す意向が示された。また、台風時などに水が調整池からあふれる懸念も出てきているため、都市整備課でこれから浚渫等の予算を検討することになった。</p> <p>次に、来年度以降の事業継続について意見交換を行った。団体側から、今回は指定テーマで募集があったが、今後の継続方法については非常に不安を持っているとの意思が伝えられた。次のステップに進む検討を、今後も続けていくことになった。</p> <p>最後に、団体から希望があった仮設トイレの設置や駐車場の設置について協議した。市民活動推進課から、企画提案型協働事業では親睦イベントや設備の整備は対象外となっているため、お祭り目的のトイレ設置や、駐車場の整備はできないと伝えた。団体としては、仮設トイレの設置は通常の施設利用者を対象としているとの意向だったため、これから担当課と協議して検討することとなった。また、市民活動推進委員から意見のあったひょうたん島池のPRの強化については、今後も引き続き検討を続けることになった。その他、調整池裏山の民有地の木々が道路にかかっており、作業に支障が出ているため、状況を市で確認することとなった。</p> <p>以上、事業計画については大筋で合意したため、これから協働の機会提案書を作成し、最終提案に進むことで協議が整った。</p>
9月25日	エコネットちば: 小熊氏 (対応: 杉山)	最終審査に向けた協働の機会提案書が提出され、これを受理した。